

左京区の未来をつくる区民会議 第5回「次代の左京まちづくり会議」(摘録)

日 時 平成22年6月16日(水) 午後1時30分～3時30分

場 所 左京区役所3階 第1会議室

出席者 別紙委員名簿のとおり

内 容 (要旨)

(1) 宗田座長挨拶

- ・京都市には、2001年から2025年までを計画期間とする京都市基本構想(グランドビジョン)と基本構想を具体化するための主要な政策を示す現行の京都市基本計画がある。現在策定に向けて取り組んでいる次期京都市基本計画は、2011年度から2020年度の10年を計画期間としている。
- ・次期基本計画の策定に当たっては、市民参加を積極的に進めており、私も、京都市基本計画審議会の融合委員会の委員長として、各部会のとりのまとめを行っているが、新たな試みとして、京都市未来まちづくり100人委員会や、未来の担い手・若者会議U(アンダー)35と呼ばれる35歳以下の委員で構成する会議などを開催し、多くの意見を寄せていただいている。
- ・現在、京都市基本計画の素案のパブリックコメント(意見募集)を実施しているが、U35の会議のメンバーから、ワークライフバランスについて、自分達の意見が反映されていないとの指摘を受けている。若い世代の人たちは、これからの10年を、仕事と人生のバランスを変えるような期間にしたいと考えており、働き過ぎを改め、人生の充実を図ることや、家庭や地域社会、市民活動に時間が持てるような生活の実現を望んでいる。
- ・京都市は住民自治を大事にしてきたが、住民自治組織が年々弱体化してきている。参加する世代が高齢化する一方、若い世代が参加しにくい状況が生まれている。そういう中、U35の方々から、もっと地域や社会活動に参加しやすくするべきとの意見が出ている。
- ・大学生をはじめとした若い世代の方が多い左京区では、特に、このような若者の発想や考え方を取り入れながら、市民の在り方、市政の在り方を変えていくべきだと思う。この次代の左京まちづくり会議にも、大学生の公募委員の方をはじめとして若い世代の方に参加していただいております。そうした若者からの意見を計画に反映していきたい。

(2) 京都市基本計画第1次案について

○事務局からの説明(資料1のとおり)

○宗田座長からの補足説明

- ・21世紀が始まった最初の10年で、日本の人口はピークを迎え、2010年から2020年の間には、年々人口が減少しはじめ、2020年から2030年には、そのスピードが更に加速するといわれている。この次の10年間に、しっかり対策をしておかないと、さらに次の10年の急速な人口減少には耐えられないと考えられる。そのためには、社会の仕組みや社会基盤、施設等、従来のものをつくり変えていく必要がある。また、自治体の財政や産業構造も変えていかなければならない。
- ・人口減少への対策としては、いかにまちの規模を絞り込むかが大切である。また、こうした変革によって、立場の弱いところにしわ寄せが来ることを避けるため、これからの10年は、生活者を守るために京都市があるということを感じ、地域主権時代をつくっていく必要がある。
- ・基本計画では、5つの未来像を掲げているが、そのうち2つが環境に関することである。ひとつは地球環境問題に対応した低炭素のまちをつくること、もうひとつは、環境と社会を創造する産業を有するまちをつくることである。日本の多くの都市が、二酸化炭素の25%削減目標に抵抗を示しているが、幸い京都は重厚長大な産業が少ないので、これをビジネスチャンスとして捉える発想が生まれている。
- ・歴史文化に関する京都の未来像の考え方は、ポスト景観政策である。景観政策により京都のまち

は随分美しくなってきたが、こうした中、いつまでも景観ではなく、景観は当たり前のこととして、その景観資源をどのように生かしていくのかがテーマとなっている。

- ・生活を守り安心安全に暮らせるまち、幸福を実感できるまち、そして学ぶことのできるまちをどのようにつくっていくのかということも、大きなテーマである。京都では、多くの若者が育っていくので、これを機軸に、21世紀の京都を切り拓いていくことが重要である。
- ・歴史、文化と環境が調和し、公共交通を生かす「個性あふれる地域づくり戦略」には、左京区の岡崎地域が例示されており、左京区の皆さんからも意見を聞きたいところである。岡崎地域については、できれば、地下鉄東山駅から歩いていくようなまちづくりを進めていく必要があると思う。
- ・北山地域には、府立植物園や京都市コンサートホールがある。さらには、京都府が北山文化環境ゾーン整備推進の検討しており、北山地域や宝ヶ池公園周辺については、京都の文化芸術のゾーンとして、どう位置付けるかを考えることが課題である。
- ・重点戦略の2番目には、歩いて楽しいまち京都戦略が位置づけられているが、これは、東山区から始まっている。東山区は、11行政区の中で最も高齢化率と女性の割合が高い地域であるため、現在、歩きにくい狭い道を、おばあさんが買い物や病院に通っている状況があり、歩きやすい歩道の整備が最も求められている地域である。
- ・観光のため、市電を廃止し、車を走りやすいようにしたのが1970年代で、その時は、団塊世代が若かったから良かったが、団塊世代は65歳を超え高齢化しようとしている。そのため、女性に優しい歩きやすい道路をつくる、というように、時代とともに道をつくり変えていくという流れになっている。その次には、隣接する左京区に歩きやすい道をつくっていくと、歩きやすい地域がつながりながら広がっていく。左京区については、公共交通をどうするか、高齢者や学生がどう考えているか、自転車の問題を含めて考えていくことが大切である。
- ・重点戦略の5つ目は、旅の本質に触れ、世界が共感する「観光都市づくり戦略」である。現在、京都市は、世界文化遺産の追加登録を考えている。京都市内には14箇所の世界文化遺産があるが、それらに加え、琵琶湖疎水や知恩院、大徳寺周辺を取り入れるべきだという意見がある。琵琶湖疎水となると哲学の道などについても考えられ、左京区としてどう考えるかがテーマになる。
- ・京都市の観光戦略は、量から質へと舵を切っている中で、新たな観光地をつくろうという観点ではなく、できることなら、滞在を伸ばし、質の高いサービスを提供していくことを、左京区としても考えなくてはならないだろう。

○意見交換

- 委員長**
- ・新たな市民参加推進計画の策定作業が今年度から新しくスタートし、その勉強会に参加した。例えば環境問題について、興味がある人は約36%、また、勉強したい人が約38%あり、他の項目と比べると関心が高いものの、実際、参加や行動を伴っているかについては疑問である。
 - ・この基本計画をつくって、いかに興味を持ち、参加していただくかが、大きな課題である。これから、計画を進めていくに当たって、興味をもってもらい、参加率を上げていくことが重要である。
- 座長**
- ・市民参加に関心はあるが、参加は少ない状況の中で、参加しやすい仕組みを考えなければならない。また、背景にあるワークライフバランスを根本から変えていくことも重要だろう。
 - ・第1次案市民意見募集用冊子の16ページの「うるおい」の分野では、2番目に人権・男女共同参画を掲げ、ワークライフバランスにポイントを置いている。1986年に男女雇用機会均等法が施行され、女性総合職の第1期生が入社し、現在その方が45歳位になっている。しかし、社会がこれだけ変わったのに、日本の一般的な男女関係は、あまり変わっておらず、男性の家事負担率はいまだに低いままである。

これは徐々に改善していくと思うが、こうした日本の男性の意識が変わらないと、出生率が上がらないといわれている。男女共同参画というより、意識改革を若い子からしていく、自分の息子に料理や掃除の仕方を教えるということから始める必要があるだろう。

- 委員**
- ・低炭素社会の実現のため、電気を消すなど、エネルギーの節約が求められている。しかし、山の手入れをすれば、二酸化炭素が吸収されるので、50年後に、うっそうとした森があればよいのではないか。現在、炭素を吸収する樹木が減っているので、樹木を育て、二酸化炭素の吸収力を高くして、低炭素社会を実現することの方が早いのではないかと思う。
 - ・基本計画には、二酸化炭素を減らす観点はあがあるが、酸素を増やすという積極的な観点が欠けているように思う。山をうまく整備して、若木を増やして炭素を吸収して酸素を増やす。酸素を出しているのは樹木である。このことが語られないのが問題である。
- 座長**
- ・一昨日、東京で京都創生の研究会があった。現在、国交省は、大都市のエコ・コンパクト化と歩いて暮らせるまちづくりを進めようとしているが、緑を計画して増やすための有効な手段を見出せないとのことである。
 - ・京都は、いち早く風致地区の指定を行ったため、大都市の中でも最も広い森林面積を有している。また、古都保存法により、歴史的風土保存地区の指定もしているが、一方でその森林の管理状況がよくないといった課題を抱えている。
 - ・市街化区域内では、生産緑地の指定が行われているが、大きな見直しも必要な時期を迎えている。これまで農地を管理してきた方が高齢化し、生産緑地指定を外して宅地化するといったことが増える可能性がある。
 - ・かつては京野菜の産地であった左京区には、市街化調整区域にも多くの農地があるが、年々減少している。農地の保全について考えていかないと、エコ・コンパクトではなく、砂漠のような地域になることも心配される。
 - ・また、森林も、風致地区に指定されているが、管理を怠ると荒廃してしまう。どのような状況がエコ・コンパクトなのか、考えていく必要がある。
- 副座長**
- ・農林水産業は、環境への貢献とともに、文化といった面からも重要な要素を持っており、単なる生産の場としてだけでなく、暮らしと密接に関係する、地域の資源、文化としての方向性を示すとわかりやすくなると思う。
 - ・基本計画なので、農林業従事者だけでなく一般市民にとっても農林業が重要であることを示すと、はじめて環境としての意味が理解できるようになると思う。農林水産業を、地域の暮らしの文化といった視点で整理することも必要である。
- 座長**
- ・現在の計画では、環境と農業のつながりについての観点が弱いところがある。
 - ・パブコメ冊子の18ページに農林業の項目が整理されており、「人と生命と環境を育む京の農林業をめざす」としているが、環境面での記述が薄いように思う。
 - ・環境に貢献する農業の在り方を整理できればよいと思うが、市民に分かりやすく伝えるにはどうしたらいいだろうか。
- 副座長**
- ・計画全体の中でうまく関係づけられないだろうか。計画全般をみると、京都の市街地の部分は重点的に書かれているが、京北地域や北部山間地域のイメージがあまり描かれていないように思う。北部地域のイメージをもう少し膨らますことが必要である。
- 座長**
- ・北部については、京都市基本計画策定審議会の尾池会長が北部に非常に関心を持っておられる。北部地域でフォーラムなどがある場合は、是非尾池会長を呼んでいただきたい。

- 委員 ・環境面の記述に関しては、内容があっさりし過ぎている印象がある。
- 委員 ・京都は、地産地消で衣食住が賄える地域であり、他の地域に依存しなくとも大丈夫であると思う。しかし、農業についてみると、京野菜というブランドで売ろうとしているが、生産量で考えると料理屋さんで賄う程度でしかない。
- 委員 ・また、京都市は京町家に対して対策を立てているようだが、地産地消と言いながら京都産以外の材木を持ってきたりしている。資源は豊富にあるのだが、それを十分使えていない。それを見込んで京都でどうしたらいいかを考える必要がある。京都の中だけでできることはたくさんあるのに、未だに何か欠けている気がする。
- 座長 ・地産地消、資源循環について、どうしたらいいかというのはこれからの課題である。
- 委員 ・将来的には、歩いて楽しいまちが実現することは素晴らしいが、その前に今の渋滞を解消することが大事ではないか。秋の行楽シーズンは、清水寺周辺に商品を届けるのに3時間もかかることがある。今の状況のままでは、交通抑制を行うと混乱が生じると思う。
- 委員 ・駐車違反は問題だが、過剰な取締りを行うと業者の配達に支障をきたす可能性がある。最終的な目標の前に、現在の課題をどうクリアしていくのか、具体的なものがないことに不安を感じている。
- 座長 ・東山区交通安全対策協議会が東大路通の三条から七条までの区間を2車線化してほしいと要望し、この計画づくりの中でも検討している。

(3) 新左京区基本計画素案について

○事務局からの説明（資料2のとおり）

○意見交換

- 座長 ・前回の会議で、「豊かなこころ」を「こころ豊かなくらし」にしてはどうかとの意見をいただき、事務局で今回修正を加えていただいた。しかし、左京区に暮らしてきた人々は、自然を愛で、歴史を楽しむ「こころ」をもっている。こころのありように左京区の特徴があり、京都市全体をリードするようなものを左京区が持っていないといけないという趣旨からすると、「豊かなこころ」という表現の方がふさわしいと思う。
- 委員 ・こころ豊かなくらしというと、京都でなくとも、どこの都市でも言えることになってしまわないだろうか。左京区にはこころがある、ということをもう少し表現するほうが良いと思う。
- 委員 ・左京区は、こころという点で、京都市をリードしていくところにポイントがあると思う。現在の表現では左京区のくらしが、全体をリードしていくようになるので、宗田座長がおっしゃったように、こころに重点を置くほうが良いと思う。
- 座長 ・11行政区の中で、左京区と西京区は、市民1人当たりの所得が高く、そもそも豊かなくらしをおくっていると言える。確かに物質的には豊かかもしれないが、今後は「豊かなこころ」を持っているかどうか重要である。
- 委員 ・豊かなこころを実現していくために、計画素案の11ページの「行政がすること」で、「伝統行事を担う人のネットワークを充実し、地域間の交流や材料等に関する情報交換を支援します」や、「文化芸術を身近にふれる機会を提供します」などを掲げている。さらには、市民しんぶんやホームページを通じて、市内で行われている伝統行事やイベントを積極的にPRしていくことも大事である。
- 委員 ・左京区ではいろいろな活動にふれることができる。例えば、禅宗のお寺で行われる坐禅会などお寺の活動を積極的に紹介したり、吉田神社の活動や学生さんの活動などがもっと広がっていくことで、こころ豊かなまちを実現していくことができるの

ではないか。

- 委員
- ・新京京区基本計画の素案に目を通して見たが、理想論という印象がある。
 - ・小中学生、高校生がいる家庭は、毎日忙しい状況にある。先日、日曜参観があったが、参加されている方が少なかった。最近では、土日も働いている方が増えたからではないか。
 - ・目先の生活が最優先の世代に対して、会議での話やこの冊子が、どこまで訴えることができるのか。これまで会議に参加させていただいているが、一般の人に、この議論されている内容がどこまで浸透していくのか、どれだけ心打たれるのか、どれだけ考えてもらえるのか、身近な話にもかかわらず、遠い話のように展開しているように感じられる。
 - ・生活に追われている人にとって、左京区のことを考えている暇はないというのが現実ではないだろうか。自分の意見を持つことは重要だが、果たしてどのくらいの人々がそれを実行できているのか疑問で、それこそが大きな課題ではないだろうか。
- 座長
- ・最近では日曜参観にも参加できない親が増えていると聞いている。また、PTAの参加率も下がっているとも聞いている。昔とは違う状況が生まれ、地域活動もPTA活動も日曜参観も、生活に追われて参加できないという人が増えているのが現実だと思う。
 - ・そういった方たちは、左京区の未来を語る余裕がないというご意見だが、私はそういう生活に追われている人こそ、左京区内の様々な問題に気づいていると思う。
 - ・子育てをしているお母さんは、女子高生や女子大生よりも、地域の問題に敏感である。先日、新風館で行われた京都市基本計画のイベントに参加していたお母さんから、自転車の進入を防ぐために公園や鴨川に柵を設けたため、赤ちゃんのバギーも入れなくなってしまった、という指摘をいただいた。
 - ・区役所や建設局にお母さんに来てもらうのではなく、むしろ、お母さんの集まっている場に、区役所の人々が赴くなど、忙しい人にはこちらから聞きにいったあげないといけないと思う。
 - ・忙しい人こそ、地域の問題の種を持っている。いきなり左京区の未来について言及することは無理だとしても、とりあえず明日、明後日に解決しなければならないことを聞くと、もう少しまとまった意見も出てくると思う。そういうきっかけでもないと、忙しい人に意見を聞くことは難しいだろう。
- 委員
- ・先ほどのご意見は、計画が抽象的であるため、一般市民からの意見が出にくいのではという指摘だと思う。計画への意見募集として、計画の内容に関与していることについて御意見をくださいとあるが、これでは、今のバギーのような身近な話を書くことはできないのではないか。
 - ・もっと身近な意見を吸い上げるためには、何でもよいので意見を書いてくださいとか、あなたの生活に関する事で気になっていることを書いてくださいといった項目を設けると、少し意見を出しやすくなるのではないか。
- 座長
- ・一般的なパブリックコメントの概念に縛られずに、この機会を、区民の方と直接交流できる場として、身近なことや、生活にかかわることについて書いてもらう貴重な機会とすればよい。
- 委員
- ・一般市民からの意見を集める機会がない中で、パブリックコメントを行うのであれば、この計画素案ができるだけ市民の目に留まる工夫が必要だと思う。一般市民は、冊子よりも意見募集用紙のほうを目にすることが多いのではないか。そのため、用紙を、ひとの目に付くようにしておくと、そこを通じて、区の計画があるということを紹介することにつながるのではないか。

- 座長 ・ 市政協力委員は、京都市と市民をつなぐ大きなチャンネルである。ただすべての市民の方が、市政協力委員と会える訳ではない中で、いろいろご苦労があると思うが、その辺りについて意見をいただきたい。
- 委員 ・ 市政協力委員は、行政と市民をつなぐひとつのパイプラインであり、確かな情報が相互に取れるようになっている。
- ・ 市政協力委員の学区の会長は、一般委員とそのネットワークをまとめているという状況である。
- ・ 少し話が違うが、いつも気になっていることがある。京都には多くの祭りなどの伝統行事があり、観光都市として県外や外国からも多くの人を訪れるが、祭り当日に地域の小学校で普通に授業をしているのはどうかと思う。
- ・ 祇園祭の山鉦巡行のときは、昔は周辺の学校は休みだったように思う。まちを挙げて祭りを盛り上げようという慣習があったが、最近はそうではないように思う。まちを挙げて参加することで、小学生には体験学習につながるのではないか。
- 事務局 ・ 左京区の伝統行事については、休みでないと担い手が集まらなかったり、子ども達が帰ってくるお盆に合わせようということから、休みの日に開催するようになってきている。しかし、葵祭などの三大祭の場合は、祭りの日をずらすということは、難しいだろう。
- ・ あるひとつの学区だけ祭の日を休みにするのは難しい。もし、休みにするとすると、全市的に対応を検討すべき問題になると思う。
- 座長 ・ 学校ごとに学区の方とお付き合いがあれば、神社などのお祭関連の行事を学校教育の中で取り扱ってもらうことはできないだろうか。
- ・ 低学年は別としても、3、4年生は、学校行事としてお祭に協力してもらおうといったかわりをつくるのが出来るのではないか。たぶん地域ごとの話題なので、学校運営協議会辺りで議論された方がいいかもしれない。
- 委員 ・ 葵祭では神社と学区の会があり、そこが祭りの拠点としての役割を果たしている。今年は、小学校とも相談し、2名の稚児が祭りに参加することになった。稚児以外の生徒は学校で授業を受けているが、学校を挙げて参加することで、ひとつの社会勉強になるのではないかと思う。
- 座長 ・ 社会勉強とは言わなくても、夏休みを1日ずらせば、できるのではないか。
- 委員 ・ 学校の授業については、文部科学省の規定があって、この4月から時間数が増え、夏休み期間が減ることになっている。さらに、土曜日でも登校しなければならないような状況になっており、学校も授業の消化に追われている。
- ・ また、修学旅行等の課外学習の日程が延びており、自然学習をそこでやろうとしているため、教師の負担が増加しているとのことである。
- ・ それらの状況の中で、地域性は生かされると思うが、ひとつの学校で行うと、他地域などから非難されることがある。
- ・ また、保護者の問題もあると思う。学校を休ませてもいいが、子供の学力低下は誰が責任を取るのかという指摘をされることもあり、自由に発言しにくい状況がある。子供を中心に話をしても、教育問題や地域性などから、問題を解消しにくくなってきている。
- 座長 ・ 学校運営協議会という新しい仕組みができたばかりで、みなさん苦労されている状況にあると思うが、今の点については、もう少し検討してほしい。
- 委員 ・ 北部地域では、祭の日程を土日に変更せざるを得ない状況である。そのため、毎年、祭の日程が異なるようになった。
- 委員 ・ 北部地域だけでなく、市街地でも祭の日程を休みに合わせるようになっている。

- 委員 ・ 葵祭には4つの小中学校が協力している。また、葵祭を通じて、他府県の小学校との交流が生まれたりしている。小学校同士で、自分たちで調べた地域研究を相手の小学校で発表するというも行っている。祭を通じて様々な学習や交流が生まれるのではないかな。
- 委員 ・ 上賀茂神社では、葵プロジェクトという法人を通じて、地域学習を行っている。その法人には、民間企業の社員の方が参加していて、子どもたちに授業や研究を行っている。ボランティアの方だけでなく、例えば企業の方などに呼び掛けることも必要ではないかな。
- 座長 ・ 指摘があった意見募集で身近な問題を拾いあげることについては、質問項目を変更する方向で検討したい。
- 委員 ・ あなたの意見で左京区は変わります。といったように、インパクトのあるメッセージを付けてはどうか。説明文章が少ない方が、意見を言いやすいのではないかな。
- 委員 ・ また、先ほどの座長のお話でよく分かったのだが、今、左京区は危機にあるということ、地下鉄の問題であるとか、人口減少の問題であるとかを書いて、今変わらなければならないというのを訴える必要があるのではないかな。
- 座長 ・ この京都市基本計画の黄色いパンフレットは、U35の方々が作成したものである。こういうデザインにすると分かりやすくなる。こうしたことは、私よりも、若い世代の委員さんたちから意見をいただいてはどうか。
- 委員 ・ 意見募集用紙については、若い人でも意見を書き込みやすいようにしてほしい。また、若い世代の委員さん達に意見募集用紙のデザイン等をお願いしてはどうか。
- 座長 ・ 京都市の基本計画と同様に、左京区の計画についても、若い人の力を借りてつくりあげてはどうか。
- 事務局 ・ 意見募集の質問項目やデザイン等については、若い世代の委員の意見を踏まえて、修正を行うこととしたい。
- 事務局 ・ 「新左京区基本計画の目指すところ」にある「豊かなところ」等の表現等については、座長預かりとして検討させていただきたい。

(4) 新左京区基本計画の策定日程について

- 事務局からの説明（資料4のとおり）
- 意見交換